

教員名	小玉 重夫 (KODAMA Shigeo)
所 属	人間文化研究科人間発達科学専攻
学 位	博士 (教育学) (1997 年度、東京大学)
職 名	助教授
URL/E-mail	http://www.li.ocha.ac.jp/hss/edusci/kodama/ / skodama@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

教育の公共性 / シティズンシップ教育 / ハンナ・アレント / 再生産理論 / 公教育思想

◆主要業績

総数 (12) 件

- ・『戦後思想の名著50』(「無着成恭編『山びこ学校』、pp.114-126 を執筆、岩崎稔・上野千鶴子・成田龍一編、平凡社、全 644 頁、2006 年 2 月)
- ・「新自由主義的教育改革におけるアカウンタビリティの両義性—No Child Left Behind(NCLB)法に着目して」(財団法人家計経済研究所『季刊 家計経済研究』No.67,2005.7.,pp.49-56)
- ・『子どもから成人への移行概念としてのシティズンシップ教育の変容とその思想史的文脈』お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「誕生から死までの人間発達科学」プロジェクトⅢ「子どもから成人へのトランジションに及ぼす社会・文化的要因の探求」思想史サブグループ報告書、小玉重夫編著、全 103 頁、2006.3.

◆研究内容

現代の教育思想を中心に研究している。私たちがふだん自明のものとしてうけいれられている「教育」や「学校」を、歴史的・構造的な視点から問い直し、そのうえで、教育改革の筋道を、特に公共性の視点から追及していくことを研究課題としている。当面は、基礎的研究として、教育の公共性について思想史的な視点から解明することに取り組み、また、応用的、実践的研究として、新しい市民を育てるシティズンシップ教育の課題に取り組んでいる。

本年度(2005年度)は、主要業績に記した通り、基礎的研究の成果として、『戦後思想の名著50』(平凡社)に、無着成恭の『山びこ学校』を検討した論文を発表し、また、『季刊 家計経済研究』に、アメリカ合衆国における学力政策の動向を分析した論文を発表した。応用的、実践的研究の成果としては、21世紀COE「誕生から死までの人間発達科学」でシティズンシップ教育に関する研究グループを統括し、その成果報告書を刊行した。

◆教育内容

学部教育：文教育学部教育科学コースで、教育思想に関する専門科目を担当している。2005年度の演習(ゼミ)では、国家と教育の関係をテーマとした文献や、学校選択に関する文献などを取り上げた。また、卒論では、ジョン・デューイの経験論を扱った論文、子どもの権利論を扱った論文、日本の新教育思想における個と社会の関係を扱った論文等が提出された。学部教育ではこのほか、教職課程を担当した。

大学院教育：博士前期および後期課程で、教育思想に関する授業を担当している。2005年度の演習(ゼミ)では、教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ(市民性)をめぐる最近の研究動向を取り上げ、ネグリ=ハートの『マルチチュード』等を検討した。大学院生の研究成果の一部は、主要業績に記した21世紀COEの報告書に掲載されているほか、エスニック・マイノリティの教育支援に関する修士論文が提出された。

◆Research Pursuits

My research field is educational thought, and I am mainly concerned about the obviousness of the "education" and the "school", which I try to deconstruct from a historical and structural viewpoint. In order to do this, I set two research strategies, one is basic and the other is applied and practical. The basic research theme is about the publicness of education focusing on the historical context of educational thought. The applied and practical research theme is about the citizenship education for bringing up a new citizen.

This fiscal year (the 2005 fiscal year) I published the paper which examined the Muchaku Seikyo's "Yamabiko Gakko" in "The 50 excellent books of postwar period thought in Japan" (Heibonsha Publishers) as a result of basic research, and I also analyzed the trend of an academic ability policy in the United States of America focusing on the No Child Left Behind Act. As a result of my applied and practical research, the research report about citizenship education was published as a part of the research reports of the 21st Century COE Program, Studies of Human-Development from Birth to Death.

◆Educational Pursuits

Faculty education: As the exercise in the 2005 fiscal year (seminar), we discussed by taking up the literature on the theme of the relation between nation state and the literature about school choice, etc.

Moreover, as the graduation thesis, the paper treating John Dewey's concept of experience, the paper treating the child's right theory, and the paper treating the relation between individual and society in the early 20th century Japan were submitted. In faculty education, I am also concerned with the education and the management of the teacher-training course.

Graduate-school education: As the exercise in the 2005 fiscal year (seminar), we examined the problem of the politics and power in education

from the various points of view, taking up the Hardt=Negri's "Multitude". A part of the graduate student's result of research was published by the report of the 21st century COE. The master's thesis about an ethnic minority's educational support was submitted.

◆共同研究例

- ・日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究
- ・経産省・シティズンシップ教育研究会
- ・お茶大附属幼・小・中（文科省開発指定校研究）

◆将来の研究計画・研究の展望

教育の公共性に関する基礎的な研究として、戦後にアメリカで活躍したハンナ・アレント（1906-1975）の思想を教育問題との関係で位置づけ直す作業を行っており、将来的にはそれをまとめていきたいと考えている。また、教育の公共性に関する思想研究と、シティズンシップ教育に関する実践研究とをつなぐために、主要業績に記したCOE報告書での成果をもとに、学力問題を切り口として、大人と子どもの関係を再構築する視点を提起する論文、著作を準備中で、2006年度中に成果を発表することをめざしている。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・シティズンシップ教育についての共同研究
- ・学力（格差）問題についての共同研究
- ・戦後教育学の理論的・歴史的検討に関する共同研究

◆受験生等へのメッセージ

教育の諸問題を幅広い視野から理論的にとらえ直すことが、教育思想のおもしろさだと思います。なお、教育の公共性や学力問題、シティズンシップ（市民性）教育を深めたい方は、2006年度に下記の催しが予定されていますので、ふるってご参加下さい！

お茶の水女子大学・21世紀COE「誕生から死までの人間発達科学」思想史サブグループ・子ども発達教育研究センター「シティズンシップ教育の開発研究プロジェクト」共催セミナー

- ・12月2日（土）午前10時から12時、場所：お茶の水女子大学本館、学部会議室103、「シティズンシップの教育、海外での調査報告」、報告者：吉村春美氏（三菱総研）。
- ・3月24日（土）午後1時～3時、場所：お茶の水女子大学本館、学部会議室103、「政治教育の現状と課題」実践研究会、報告者：林大介氏（NPO法人ライツ常務理事）日本における模擬投票による政治教育の実践報告、コメンテーター：近藤孝弘氏（名古屋大学）。